

# 四半期報告書

(第73期第2四半期)

自 2014年7月1日

至 2014年9月30日

株式会社 **アドバンテスト**

# 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

### 第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

### 第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況の分析	2

### 第3 提出会社の状況

#### 1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) ライツプランの内容	4
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(6) 大株主の状況	5
(7) 議決権の状況	6

#### 2 役員の状況

	6
--	---

### 第4 経理の状況

	7
--	---

#### 1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書	10
(3) 四半期連結包括利益計算書	12
(4) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13

#### 2 その他

	25
--	----

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報

	26
--	----

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2014年11月14日
【四半期会計期間】	第73期第2四半期（自 2014年7月1日 至 2014年9月30日）
【会社名】	株式会社アドバンテスト
【英訳名】	ADVANTEST CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役兼執行役員社長 黒江 真一郎
【本店の所在の場所】	東京都練馬区旭町1丁目32番1号
【電話番号】	東京（03）3930-4111（代表）
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。 （注）本店所在地は登記上のものであり、本社事務は下記で行っております。
【最寄りの連絡場所】	（本社事務所） 東京都千代田区丸の内1丁目6番2号 新丸の内センタービルディング
【電話番号】	東京（03）3214-7500（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役兼常務執行役員管理本部長 中村 弘志
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第72期 第2四半期連結 累計期間	第73期 第2四半期連結 累計期間	第72期
会計期間	自2013年4月1日 至2013年9月30日	自2014年4月1日 至2014年9月30日	自2013年4月1日 至2014年3月31日
売上高 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	59,638 (29,548)	78,943 (42,114)	111,878
税引前四半期(当期)純利益(△損失) (百万円)	△7,387	8,017	△35,501
四半期(当期)純利益(△損失) (第2四半期連結会計期間) (百万円)	△9,339 (△5,698)	4,585 (3,246)	△35,540
四半期包括利益または包括利益 (百万円)	△3,545	11,407	△23,285
純資産額 (百万円)	136,885	126,791	116,252
総資産額 (百万円)	221,966	249,821	229,856
1株当たり四半期(当期)純利益 (△損失) (第2四半期連結会計期間) (円)	△53.65 (△32.71)	26.32 (18.64)	△204.10
希薄化後1株当たり四半期(当期) 純利益(△損失) (円)	△53.65	23.79	△204.10
自己資本比率 (%)	61.67	50.75	50.58
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	3,380	13,392	△3,776
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△3,956	△142	△4,711
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△1,231	△809	27,202
現金および現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	45,772	83,503	68,997

- (注) 1. 当社の連結経営指標等は、米国会計基準に準拠して作成しております。  
2. 売上高の金額表示は、消費税等抜きであります。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、株式会社アドバンテスト(以下「当社」)の企業グループ(以下「アドバンテスト」)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（2014年4月1日～2014年9月30日）の状況 （単位：億円）

区分	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比
受注高	609	874	43.6%
売上高	596	789	32.4%
営業利益	△80	64	—
税引前四半期純利益	△74	80	—
四半期純利益	△93	46	—

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、米国経済においては堅調な回復軌道を維持しましたが、欧州では経済活動の減速傾向が続きました。中国など新興国諸国は、引き続き世界経済成長の牽引役であるものの、成長に鈍化が見られました。日本経済は、消費税増税に伴う景気の落ち込みから緩やかな回復を続けました。

半導体関連市場においては、2013年末に中国でLTEサービスが開始されたことを契機として、中国向けLTEスマートフォンに搭載される半導体需要が増加したほか、ハイエンド・スマートフォン新製品用の半導体生産が本格化したことで、生産能力増強に向けた設備投資が半導体メーカー各社で活発に進展しました。

このような事業環境のなか、当社はスマートフォン用半導体向けを中心に事業の伸長に努めました。その結果、受注高は874億円（前年同期比43.6%増）、売上高は789億円（同32.4%増）となりました。前年同期比での増収に加え、採算性の高い製品の売上比率が向上したことなどにより損益面は大きく改善し、営業利益は64億円、税引前四半期純利益は80億円、四半期純利益は46億円となりました。海外売上比率は92.8%（前年同期90.5%）です。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### <半導体・部品テストシステム事業部門>

（単位：億円）

区分	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比
受注高	393	639	62.6%
売上高	413	550	33.1%
営業利益	△38	79	—

当部門では、中国でのLTE基地局増設、中国市場向けスマートフォンの増産、新型ハイエンド・スマートフォンの販売開始などが半導体需要を喚起したことを背景に、非メモリ半導体用テスト「V93000」の販売が好調に推移しました。MPU向けのテストシステム需要も伸びたほか、メモリ半導体用テストシステムにも底堅い需要が集まりました。

以上により、当部門の受注高は639億円（前年同期比62.6%増）、売上高は550億円（同33.1%増）、営業利益は79億円となりました。

<メカトロニクス関連事業部門>

(単位：億円)

区分	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比
受注高	93	119	27.5%
売上高	68	111	63.5%
営業利益	△25	7	—

当部門では、半導体テストシステムの需要増に呼応して、事業連動性が高いデバイス・インタフェースやテスト・ハンドラに対する需要が伸びました。また半導体微細化の進展に伴うナノテクノロジー製品需要の伸びを着実に取り込みました。

以上により、当部門の受注高は119億円（前年同期比27.5%増）、売上高は111億円（同63.5%増）、営業利益は7億円となりました。

<サービス他部門>

(単位：億円)

区分	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比
受注高	124	117	△5.5%
売上高	116	129	11.0%
営業利益	12	16	33.8%

当部門では、リース需要の伸び悩みなどで受注高が前年同期を下回りましたが、フィールドサービス事業の収益向上に向けた取り組みが順調に進捗しました。

以上により、当部門の受注高は117億円（前年同期比5.5%減）、売上高は129億円（同11.0%増）、営業利益は16億円（同33.8%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期末における現金および現金同等物は、前年度末より145億円増加し、835億円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、四半期純利益46億円を計上したことに加え、未払法人税等の増加（30億円）、未払費用の増加（27億円）および売上債権の増加（△38億円）に、減価償却費などの非資金項目等の損益を調整した結果、134億円の収入（前年同期は、34億円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、1億円の支出（前年同期は、40億円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の購入（△15億円）および売却可能有価証券の売却による収入（16億円）によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、8億円の支出（前年同期は、12億円の支出）となりました。これは主に、配当金の支払（△8億円）によるものであります。

(3) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、アドバンテストが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費は150億円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間において、アドバンテストの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	440,000,000
計	440,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2014年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2014年11月14日)	上場金融商品取引所名 または登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	199,566,770	199,566,770	東京証券取引所市場第一部 ニューヨーク証券取引所	単元株式数 100株
計	199,566,770	199,566,770	—	—

(注) 提出日現在の発行数には、2014年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式 総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額(百万円)	資本準備金 残高(百万円)
2014年7月1日～ 2014年9月30日	—	199,566,770	—	32,363	—	32,973

## (6) 【大株主の状況】

2014年9月30日現在

氏名または名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	22,800	11.42
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 富士通口再信託受託者 資産管理サー ビス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番12号	20,143	10.09
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	12,579	6.30
BNPパリバ証券株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目9番1号	6,315	3.17
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	3,959	1.99
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口4)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	3,617	1.81
JPMorgan証券株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目7番3号	3,085	1.55
ステート ストリート バンク ウェスト クライアント トリーティー (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	1776 HERITAGE DRIVE, NORTH QUINCY, MA 02171, U. S. A. (東京都中央区月島4丁目16番13号)	1,746	0.87
BARCLAYS CAPITAL SECURITIES LIMITED (常任代理人 バークレイズ証券株式会 社)	5 THE NORTH COLONNADE CANARY WHARF LONDON E14 4BB UNITED KINGDOM (東京都港区六本木6丁目10番1号)	1,737	0.87
エイチエスビーシー アジア エクイ ティー ファイナンス ジャパン エクイティーズ(トレーディング) (常任代理人 香港上海銀行)	LEVEL 16, 1 QUEEN'S ROAD CENTRAL, HONG KONG (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	1,670	0.84
計	—	77,651	38.91

(注) 1. 上記のほか、自己株式が25,367千株あります。

2. みずほ信託銀行株式会社退職給付信託富士通口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社の所有株式数20,143千株は、富士通株式会社が所有していた当社株式を退職給付信託として委託した信託財産であり、議決権については富士通株式会社の指図により行使されることとなっております。

3. 下記の大量保有者から2014年3月3日付で提出された大量保有報告書(変更報告書)により、2014年2月24日現在で以下の株式を共同保有している旨の報告を受けておりますが、当社として実質所有株式数の確認ができない部分については上記表に含めておりません。なお、その大量保有報告書(変更報告書)の内容は次のとおりであります。

大量保有者(共同保有) 株式会社三菱東京UFJ銀行他4社  
保有株券等の数 16,706,237株  
株券等保有割合 8.37%

4. 下記の大量保有者から2014年6月19日付で提出された大量保有報告書(変更報告書)により、2014年6月13日現在で以下の株式を共同保有している旨の報告を受けておりますが、当社として実質所有株式数の確認ができない部分については上記表に含めておりません。なお、その大量保有報告書(変更報告書)の内容は次のとおりであります。

大量保有者(共同保有) 三井住友信託銀行株式会社他2社  
保有株券等の数 15,116,824株  
株券等保有割合 7.57%

5. 下記の大量保有者から2014年9月4日付で提出された大量保有報告書(変更報告書)により、2014年8月29日現在で以下の株式を共同保有している旨の報告を受けておりますが、当社として実質所有株式数の確認ができない部分については上記表に含めておりません。なお、その大量保有報告書(変更報告書)の内容は次のとおりであります。

大量保有者(共同保有) 野村証券株式会社他4社  
保有株券等の数 16,722,778株  
株券等保有割合 8.21%



## (7) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

2014年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 25,367,300	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 174,079,300	1,740,793	—
単元未満株式	普通株式 120,170	—	—
発行済株式総数	199,566,770	—	—
総株主の議決権	—	1,740,793	—

(注) 「完全議決権株式 (その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式3,400株および議決権34個が含まれております。

## ② 【自己株式等】

2014年9月30日現在

所有者の氏名 または名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
(株)アドバンテスト	東京都練馬区旭町 1丁目32番1号	25,367,300	—	25,367,300	12.71
計	—	25,367,300	—	25,367,300	12.71

## 2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

## (1) 役職の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
代表取締役	—	代表取締役 兼執行役員社長 (CEO)	—	松野 晴夫	2014年8月7日
代表取締役 兼執行役員社長 (CEO)	—	取締役 兼執行役員副社長	製品・技術 担当	黒江 真一郎	2014年8月7日

## (2) 退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
代表取締役	—	松野 晴夫	2014年8月23日

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年(平成19年)内閣府令第64号)第95条の規定に基づき、米国において一般に認められた会計基準による用語、様式および作成方法に準拠して作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2014年7月1日から2014年9月30日まで）および第2四半期連結累計期間（2014年4月1日から2014年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2014年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2014年9月30日)
資産の部		
現金および現金同等物	68,997	83,503
売上債権（貸倒引当金控除後）	20,404	25,794
棚卸資産	30,200	30,476
その他の流動資産	5,218	4,397
流動資産合計	124,819	144,170
投資有価証券	3,741	2,423
有形固定資産(純額)	39,925	38,903
無形資産(純額)	3,545	3,430
のれん	46,846	49,777
その他の資産	10,980	11,118
資産合計	229,856	249,821

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2014年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2014年9月30日)
負債の部		
買掛金	12,353	15,613
未払費用	6,775	9,583
未払法人税等	1,089	3,741
製品保証引当金	1,589	1,492
1年以内償還社債	—	10,000
前受金	2,488	2,996
その他の流動負債	2,313	3,368
流動負債合計	26,607	46,793
社債	25,000	15,000
転換社債	30,149	30,134
未払退職および年金費用	28,641	28,714
その他の固定負債	3,207	2,389
負債合計	113,604	123,030
契約債務および偶発債務		
資本の部		
資本金	32,363	32,363
資本剰余金	43,906	43,895
利益剰余金	130,740	134,387
その他の包括利益累計額	5,326	12,148
自己株式	△96,083	△96,002
資本合計	116,252	126,791
負債および資本合計	229,856	249,821

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2014年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2014年9月30日)
資産の部の補足情報		
有形固定資産減価償却累計額	44,832	44,725
無形固定資産減価償却累計額	969	1,592

	前連結会計年度 (2014年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2014年9月30日)
資本の部の補足情報		
授権株式数	440,000,000株	440,000,000株
発行済株式総数	199,566,770株	199,566,770株
自己株式数	25,368,828株	25,367,391株

## (2) 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)
売上高	59,638	78,943
売上原価	30,793	35,697
売上総利益	28,845	43,246
研究開発費	17,408	15,022
販売費および一般管理費	19,431	21,832
営業利益 (△損失)	△7,994	6,392
その他収益(△その他費用)		
受取利息および受取配当金	100	88
支払利息	△70	△68
投資有価証券売却益	576	559
その他	1	1,046
その他収益 (△その他費用) 合計	607	1,625
税引前四半期純利益 (△損失)	△7,387	8,017
法人税等	1,954	3,432
持分法投資利益	2	—
四半期純利益 (△損失)	△9,339	4,585

(単位：円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)
1 株当たり四半期純利益 (△損失)		
基本的	△53.65	26.32
希薄化後	△53.65	23.79

## 【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自 2013年7月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2014年7月1日 至 2014年9月30日)
売上高	29,548	42,114
売上原価	15,995	19,119
売上総利益	13,553	22,995
研究開発費	8,688	7,641
販売費および一般管理費	9,543	11,364
営業利益 (△損失)	△4,678	3,990
その他収益 (△その他費用)		
受取利息および受取配当金	24	29
支払利息	△36	△34
投資有価証券売却益	84	—
その他	64	840
その他収益 (△その他費用) 合計	136	835
税引前四半期純利益 (△損失)	△4,542	4,825
法人税等	1,156	1,579
四半期純利益 (△損失)	△5,698	3,246

(単位：円)

	前第2四半期連結会計期間 (自 2013年7月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2014年7月1日 至 2014年9月30日)
1株当たり四半期純利益 (△損失)		
基本的	△32.71	18.64
希薄化後	△32.71	16.85

(3) 【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)
四半期純利益(△損失)	△9,339	4,585
その他の包括利益(△損失)(税効果調整後)		
為替換算調整額	5,719	6,661
純未実現有価証券評価損益	△296	△371
年金債務調整	371	532
その他の包括利益(△損失)合計	5,794	6,822
四半期包括利益(△損失)	△3,545	11,407

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自 2013年7月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2014年7月1日 至 2014年9月30日)
四半期純利益(△損失)	△5,698	3,246
その他の包括利益(△損失)(税効果調整後)		
為替換算調整額	△247	8,727
純未実現有価証券評価損益	△480	△116
年金債務調整	252	252
その他の包括利益(△損失)合計	△475	8,863
四半期包括利益(△損失)	△6,173	12,109

## (4) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
四半期純利益(△損失)	△9,339	4,585
営業活動によるキャッシュ・フローへの調整		
減価償却費	4,573	2,514
繰延法人税等	203	△337
ストック・オプションによる報酬費用	438	—
投資有価証券売却益	△576	△559
売上債権の増減(△増加)	7,129	△3,828
未収入金の増減(△増加)	△131	733
棚卸資産の増減(△増加)	△697	506
買掛金の増減(△減少)	1,542	2,398
未払金の増減(△減少)	34	422
未払費用の増減(△減少)	△23	2,712
未払法人税等の増減(△減少)	△265	2,975
製品保証引当金の増減(△減少)	△18	△127
前受金の増減(△減少)	△285	494
未払退職および年金費用の増減(△減少)	839	247
その他	△44	657
営業活動によるキャッシュ・フロー 計	3,380	13,392
投資活動によるキャッシュ・フロー		
売却可能有価証券の売却による収入	943	1,557
子会社買収額(取得現金控除後)	△1,168	—
有形固定資産の購入額	△3,521	△1,497
無形資産の購入額	△465	△249
その他	255	47
投資活動によるキャッシュ・フロー 計	△3,956	△142
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△1,734	△845
その他	503	36
財務活動によるキャッシュ・フロー 計	△1,231	△809
現金および現金同等物に係る換算差額	1,911	2,065
現金および現金同等物の純増減額(△減少)	104	14,506
現金および現金同等物の期首残高	45,668	68,997
現金および現金同等物の四半期末残高	45,772	83,503



## 四半期連結財務諸表注記

### 注1. 会計処理の原則および手続ならびに連結財務諸表の表示方法

#### (a) 連結財務諸表が準拠している用語、様式および作成方法

アドバンテストの連結財務諸表は、米国預託証券の発行等に関して要請されている米国における会計処理の原則および手続ならびに用語、様式および作成方法（以下「米国会計基準」）に準拠して作成しております。非政府組織の米国会計基準は、米国財務会計基準審議会の会計基準（ASC）において体系化されています。

当四半期連結財務諸表は、重要な点において、2014年3月31日に終了した連結会計年度の連結財務諸表に適用されたものと同一の米国会計基準に準拠して作成されています。

当四半期連結財務諸表は、監査されておきませんが、経営者の見解として、四半期の経営成績を適正に表示するために必要な通常の決算修正を実施しております。当四半期連結財務諸表は、2014年3月31日に終了した連結会計年度の連結財務諸表と合わせて利用されるべきであります。

#### (b) 連結財務諸表の作成状況および米国証券取引委員会における登録状況

当社は2001年9月17日（現地時間）にニューヨーク証券取引所に上場（ADR（米国預託証券）を発行）し、2001年3月期以降、Form 20-F（わが国の有価証券報告書に相当）を米国証券取引委員会に登録しております。なお、Form 20-Fの登録に際し、連結財務諸表を米国会計基準に基づいて作成しております。

#### (c) 日本会計基準に準拠して作成する場合との主要な相違点

アドバンテストが採用する会計処理の原則および手続ならびに表示方法のうち、わが国の会計処理の原則および手続ならびに表示方法に準拠して作成する場合との主要な相違の内容は次のとおりであります。

##### ① 有給休暇引当金

将来の休暇について、従業員が給与を受け取れる権利が行使される可能性が高いと見込まれる金額を引当金として計上しております。

##### ② 企業結合

のれんは規則的償却を行わず、少なくとも1年に一度は減損のテストにより減損の評価を行うこととしております。取得関連費用は発生時に費用処理しております。

##### ③ スtock・オプション

Stock・オプションが失効した場合に、新株予約権戻入益の計上は行っておりません。

### 注2. 事業の内容および重要な会計方針

#### (a) 事業の内容

アドバンテストは、半導体・部品テストシステムの製品群とテスト・ハンドラやデバイス・インタフェース等のメカトロニクス関連製品群の製造・販売を主な事業内容とし、その他にこれらに関連する研究開発および保守・サービス等の事業活動を展開しております。

半導体・部品テストシステム事業部門は、半導体・電子部品産業においてテストシステム製品を顧客に提供することを事業としております。この事業部門は、メモリ半導体デバイスのテストシステムであるメモリ半導体用テストシステム、非メモリ半導体デバイスのテストシステムであるSoC半導体用テストシステムなどの製品群を事業内容としております。

メカトロニクス関連事業部門は、半導体デバイスをハンドリングするメカトロニクス応用製品のテスト・ハンドラ、被測定物とのインタフェースであるデバイス・インタフェースおよびナノテクノロジー関連の製品群を事業内容としております。

サービス他部門の内容は、上記の事業に関連した総合的な顧客ソリューションの提供、サポート・サービスおよび機器リース事業等で構成されております。

#### (b) 四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更および未適用の新しい会計基準

2014年5月に、米国財務会計基準審議会は、顧客との契約から生じる収益に関する基準を公表しました。当該基準は、収益認識に関する現行の基準をすべて置き換えるものであり、一部の例外を除くすべての顧客との契約から生じる収益に、5つのステップから構成される単一の収益認識モデルの適用を要求しています。さらに、顧客との契約、収益認識に関する重要な判断やその変更、契約を獲得または履行するためのコストから認識した資産の定量的・定性的な開示を求めています。当該基準の適用にあたっては、財務諸表に表示される全ての会計年度に亘って当該基準を遡及的に適用する方法、または、初めて当該基準を適用する会計期間の期首において、適用による累積的影響を認識する方法を選択することができます。当該基準は、2016年12月16日以降に開始する連結会計年度ならびにその四半期に適用され、アドバンテストにおいては、2017年4月1日に開始する第1四半期から適用になります。アドバンテストは、現在、当該基準の連結財務諸表に与える影響を検討しております。

(c)組替

当第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結会計期間における表示に合わせるために、前連結会計年度の連結財務諸表を組替えております。

注3. 棚卸資産

2014年3月31日および2014年9月30日現在における棚卸資産の内訳は次のとおりであります。

単位：百万円

	前連結会計年度 (2014年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2014年9月30日)
製品	6,509	8,457
仕掛品	11,467	10,053
原材料および貯蔵品	12,224	11,966
	30,200	30,476

注4. 投資有価証券

市場性のある持分証券は売却可能有価証券として分類されております。2014年3月31日および2014年9月30日現在の取得原価、総未実現利益、総未実現損失および公正価値は以下のとおりであります。

単位：百万円

	前連結会計年度 (2014年3月31日)			
	取得原価	総未実現利益	総未実現損失	公正価値
非流動：				
売却可能有価証券：				
持分証券	2,055	1,244	27	3,272

単位：百万円

	当第2四半期連結会計期間 (2014年9月30日)			
	取得原価	総未実現利益	総未実現損失	公正価値
非流動：				
売却可能有価証券：				
持分証券	1,301	765	115	1,951

持分証券は主として国内上場会社発行の株式です。

前第2四半期連結累計期間および前第2四半期連結会計期間における売却可能有価証券の売却額は、806百万円および274百万円であり、売却による総実現利益は、576百万円および84百万円であります。当第2四半期連結累計期間における売却可能有価証券の売却額および売却による総実現利益は、1,292百万円および559百万円であります。当第2四半期連結会計期間における売却可能有価証券の売却額および売却による総実現利益はありません。なお、前第2四半期連結累計期間および前第2四半期連結会計期間ならびに当第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結会計期間における売却可能有価証券の売却による総実現損失はありません。

売却可能有価証券の売却に伴う総実現損益の純額は、平均原価法で算定しております。前第2四半期連結累計期間および前第2四半期連結会計期間ならびに当第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結会計期間においては、売却可能有価証券について、一時的でない減損が発生しなかったため評価損を計上しておりません。

2014年3月31日および2014年9月30日現在における売却可能有価証券の総未実現損失および公正価値を、未実現損失が継続的に生じている期間別にまとめると以下のとおりであります。

	単位：百万円			
	前連結会計年度			
	(2014年3月31日)			
	12ヶ月未満		12ヶ月以上	
	公正価値	総未実現損失	公正価値	総未実現損失
非流動：				
売却可能有価証券：				
持分証券	289	27	-	-

	単位：百万円			
	当第2四半期連結会計期間			
	(2014年9月30日)			
	12ヶ月未満		12ヶ月以上	
	公正価値	総未実現損失	公正価値	総未実現損失
非流動：				
売却可能有価証券：				
持分証券	-	-	180	115

アドバンテストは、市場性のない持分証券を、原価で計上しております。これらの市場性のない持分証券の2014年3月31日および2014年9月30日現在の帳簿価額は469百万円および472百万円であります。市場性のない持分証券のうち、減損の評価を行ったものは、その公正価値が概ね帳簿価額であります。減損の評価を行わなかったものの2014年3月31日および2014年9月30日現在の帳簿価額は469百万円および472百万円であります。これらについては、その公正価値の見積もりが実務的でなく、公正価値に対して著しく悪い影響を及ぼすかもしれない事象の発生または状況の変化が認められなかったため、公正価値の見積もりを行っておりません。公正価値の見積もりが実務的でないのは、即時に決定できる公正価値が存在しないこと、公正価値の見積もりが多額の費用が必要であることからであります。減損の兆候が認められる市場性のない持分証券は、減損が発生しており、それが一時的でないかを検討しております。

#### 注5. デリバティブ

アドバンテストは外国為替相場の変動に起因する為替リスクを管理するために、デリバティブ商品を利用しております。これらは、主に外国為替相場の変動により生じる損益およびキャッシュ・フローの変動を軽減するために保有しております。アドバンテストは投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針であります。デリバティブは契約の相手先が契約不履行となる場合のリスク要因を見込んでおります。ただし、アドバンテストは、契約の相手先を所定の信用力のガイドラインを満たす主要な国際的銀行および金融機関に限定することにより、リスクを最小限にしております。アドバンテストの経営者は、いかなる相手先も債務不履行になることを予想しておりません。したがって、相手先の債務不履行のために発生するどのような損失も予想しておりません。また、これらのデリバティブに関して担保を要求することも、また担保を提供することもしておりません。

デリバティブは公正価値により貸借対照表上の資産または負債として計上されております。デリバティブの公正価値の変動は、その他収益（△その他費用）に計上されております。

ヘッジとして指定されていないデリバティブ

ヘッジとして指定されていないデリバティブは主に先物為替予約であり、それらの契約は、当該契約から発生する利益および損失が、為替変動リスクから発生する為替差益および差損を相殺することにより当該リスクを軽減するために利用されております。為替予約等の公正価値の変動はその他収益（△その他費用）に計上されております。

2014年3月31日および2014年9月30日現在、アドバンテストは、日本円、米ドルおよびユーロといった通貨を交換するための為替予約等を保有しておりません。

#### デリバティブの公正価値

2014年3月31日および2014年9月30日現在、ヘッジ指定外のデリバティブは保有しておりません。

#### デリバティブの四半期連結損益計算書への影響

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間ならびに前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間におけるヘッジ指定外のデリバティブの四半期連結損益計算書への影響は以下のとおりであります。

ヘッジ指定外のデリバティブ

単位：百万円			
	科目	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間
		(自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	(自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)
為替予約等	その他収益 (△その他費用)	91	17

  

単位：百万円			
	科目	前第2四半期連結会計期間	当第2四半期連結会計期間
		(自 2013年7月1日 至 2013年9月30日)	(自 2014年7月1日 至 2014年9月30日)
為替予約等	その他収益 (△その他費用)	64	3

#### 注6. 公正価値による測定

##### 金融商品の公正価値

次の表は、2014年3月31日および2014年9月30日現在のアドバンテストの金融商品の帳簿価額と見積り公正価値を示しております。公正価値の見積りは当該金融商品に関連した市場価格情報および金融商品の内容を基礎として期末の一時点で算定されたものであります。これらの見積りは実質的に当社が行っており、不確実性および見積りに重要な影響を及ぼす当社の判断を含んでおり、精緻に計算することはできません。このため、想定している前提条件の変更により当該見積りは重要な影響を受ける可能性があります。

	単位：百万円			
	前連結会計年度		当第2四半期	
	(2014年3月31日)		連結会計期間 (2014年9月30日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
金融資産				
投資有価証券				
売却可能有価証券	3,272	3,272	1,951	1,951
金融負債				
社債(1年以内償還社債を含む)	25,000	24,975	25,000	24,987
転換社債	30,149	31,518	30,134	32,794

売却可能有価証券の帳簿価額は、連結貸借対照表の投資有価証券に含めております。

各種の金融商品の公正価値を見積る際に、以下の方法や仮定を使用しております。

現金および現金同等物、売上債権、買掛金

これら金融商品は満期までの期間が短いため、帳簿価額はおおむね公正価値と同じであります。

売却可能有価証券

持分証券の公正価値は、決算日におけるそれらの市場の終値を基準にしております。

為替予約等

為替予約等の公正価値は、金融機関より提示された相場を元に算出しております。

社債(1年以内償還社債を含む)および転換社債

社債(1年以内償還社債を含む)および転換社債の公正価値は、公表されている市場価格を元に算出し、レベル2に分類しております。

#### レベル別の公正価値

米国会計基準では公正価値を次のように定義づけております。公正価値とは、資産ないし負債が、測定日現在の主要な市場ないし最も有利な市場において、市場参加者間で秩序ある取引として、資産を売却または負債を移転した時に受け取るまたは支払うであろう価格（出口価格）であります。加えて、価格評価手法に用いられる基礎情報の利用について、以下のような3つのレベルの公正価値の階層があります。

「レベル1」の基礎情報とは、測定日において会社が参加することのできる活発な市場での、同一の資産または負債の調整する必要のない取引価格であります。

「レベル2」の基礎情報とは、「レベル1」に属する取引価格以外で、直接的あるいは間接的にその資産または負債に関連して市場から入手できるものであります。

「レベル3」の基礎情報とは、その資産または負債に関連して市場から入手できないものであります。

#### 経常的に公正価値で測定される資産および負債

2014年3月31日および2014年9月30日現在において、経常的に公正価値で測定されている資産および負債のレベル別帳簿価額は次のとおりであります。

単位：百万円				
前連結会計年度 (2014年3月31日)				
	合計	レベル1	レベル2	レベル3
資産				
売却可能有価証券：持分証券 公正価値で測定された	3,272	3,272	-	-
資産合計	3,272	3,272	-	-

  

単位：百万円				
当第2四半期連結会計期間 (2014年9月30日)				
	合計	レベル1	レベル2	レベル3
資産				
売却可能有価証券：持分証券 公正価値で測定された	1,951	1,951	-	-
資産合計	1,951	1,951	-	-

2014年3月31日および2014年9月30日現在において、経常的に公正価値で測定されている負債はありません。

売却可能有価証券の公正価値の修正は、損失が一時的でない場合を除き、その他の包括利益（△損失）累計額を税引後金額で増減させております。損失が一時的でない場合には、投資有価証券評価損で処理しております。

## 非経常的に公正価値で測定される資産および負債

2014年3月31日において、非経常的に公正価値で測定された資産および負債のレベル別帳簿価額は次のとおりであります。

	単位：百万円			
	前連結会計年度 (2014年3月31日)			
	合計	レベル1	レベル2	レベル3
資産				
有形固定資産	-	-	-	-
無形資産	-	-	-	-
公正価値で測定された				
資産合計	-	-	-	-

有形固定資産および無形資産の公正価値は、将来の期待されるキャッシュ・フローの現在価値などを元にインカムアプローチなどにより算出しております。なお、公正価値の測定にあたって考慮された資産の状況や重要な基礎データは観測不能であるため、上記の資産の公正価値はレベル3に分類されています。

2014年9月30日現在において、非経常的に公正価値で測定された資産および負債はありません。

## 注7. 社債および転換社債

2014年3月31日および2014年9月30日現在の社債および転換社債の内訳は次のとおりであります。

	単位：百万円	
	前連結会計年度 (2014年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2014年9月30日)
	無担保社債	
償還期限2015年5月25日、利率年0.416%	10,000	10,000
償還期限2017年5月25日、利率年0.606%	15,000	15,000
	25,000	25,000

	単位：百万円	
	前連結会計年度 (2014年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2014年9月30日)
	転換社債	
償還期限2019年3月14日、利率年0.000%	30,000	30,000
未償却プレミアム	149	134
	30,149	30,134

2014年3月にアドバンテストは発行総額30,000百万円の2019年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債（ゼロクーポン）（以下「本転換社債」）を発行しました。本転換社債の新株予約権の行使期間は、2014年4月1日から2019年2月28日までであり、当初の転換価額は1,655円です。標準的な希薄化防止条項とは別に、合併や会社分割などの組織再編や上場廃止等による繰上償還が行われる前の一定期間に転換価額は減額されます。減額される金額は、転換価額減額開始日および本転換社債の要項に定める当社普通株式の参照価格に応じて、一定の方式に従って決定されます。減額された後の転換価額の下限は1,123円、上限は1,655円です。転換価額は、各事業年度の1株当たり配当額が15円を上回る場合にも調整されます。本転換社債の所持人は、転換価額減額開始日以後に、その保有する本転換社債額面金額の100%に償還プレミアムを加えた金額で繰上償還することをアドバンテストに対して請求する権利を有します。償還プレミアムの金額は、払込期日においては額面金額の3.0%、満期償還日においてはゼロとして、本転換社債の期間にわたる定額法での償却により決定される金額です。アドバンテストは、残存する本転換社債の額面金額総額が当初発行時の額面金額総額の10%未満となった場合、その選択により、残存する本転換社債の全部を額面金額の100%で繰上償還する権利を有します。

注8. 法人税等

2013年9月30日および2014年9月30日現在における年間見積実効税率は、主に繰延税金資産に対する評価性引当金の増減、海外子会社での適用税率および連結グループを構成する各社の損益の状況により、それぞれ37.7%および35.4%の法定税率と差異が生じています。

注9. その他の包括利益（損失）

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間におけるその他の包括利益（△損失）累計額の変動は以下のとおりであります。

単位：百万円

	前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)			
	為替換算 調整額	純未実現有価 証券評価損益	年金債務調整	その他の包括 利益（△損失） 累計額
期首残高	3,934	1,549	△12,412	△6,929
当期発生額	5,719	76	△98	5,697
実現部分の再分類調整	—	△372	469	97
	5,719	△296	371	5,794
期末残高	9,653	1,253	△12,041	△1,135

単位：百万円

	当第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)			
	為替換算 調整額	純未実現有価 証券評価損益	年金債務調整	その他の包括 利益（△損失） 累計額
期首残高	16,489	907	△12,070	5,326
当期発生額	6,661	△10	41	6,692
実現部分の再分類調整	—	△361	491	130
	6,661	△371	532	6,822
期末残高	23,150	536	△11,538	12,148

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間ならびに前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間におけるその他の包括利益（△損失）累計額から組替えられた金額は以下のとおりであります。

単位：百万円

その他の包括利益（△損失）累計額からの組替金額（1）		
前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	四半期連結損益計算書に 影響する項目
純未実現有価証券評価損益：		
△576	△559	その他収益（△その他費用）
204	198	法人税等
△372	△361	四半期純利益（△損失）
年金債務調整：		
年金数理上の損失の償却額	607	641 （2）
過去勤務費用の償却額	△84	△84 （2）
△54	△66	法人税等
469	491	四半期純利益（△損失）
組替金額合計—税効果調整後	97	130

単位：百万円

その他の包括利益（△損失）累計額からの組替金額（1）		
前第2四半期 連結会計期間	当第2四半期 連結会計期間	四半期連結損益計算書に 影響する項目
純未実現有価証券評価損益：		
△84	0	その他収益（△その他費用）
30	0	法人税等
△54	0	四半期純利益（△損失）
年金債務調整：		
年金数理上の損失の償却額	304	319 （2）
過去勤務費用の償却額	△42	△42 （2）
△28	△32	法人税等
234	245	四半期純利益（△損失）
組替金額合計—税効果調整後	180	245

（1）金額の増加（減少）は連結損益計算書における利益の減少（増加）を示しております。

（2）期間純年金費用の詳細は、注11. 未払退職および年金費用に記載しております。



注10. 株式に基づく報酬

前第2四半期連結累計期間および前第2四半期連結会計期間における株式に基づく報酬費用は438百万円および438百万円であり、それらは連結損益計算書上、販売費および一般管理費に含まれております。前第2四半期連結累計期間および前第2四半期連結会計期間において報酬費用に関する税効果金額を113百万円および113百万円計上しております。

注11. 未払退職および年金費用

期間純年金費用の内訳は次のとおりであります。

単位：百万円

	前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)	
	国内制度	海外制度	国内制度	海外制度
期間純年金費用の内訳				
勤務費用	867	236	888	287
利息費用	282	216	302	262
年金資産の期待収益	△232	△160	△335	△199
未認識分の償却				
年金数理損益 (純額)	460	147	449	192
過去勤務費用	△84	—	△84	—
期間純年金費用	1,293	439	1,220	542

単位：百万円

	前第2四半期連結会計期間 (自 2013年7月1日 至 2013年9月30日)		当第2四半期連結会計期間 (自 2014年7月1日 至 2014年9月30日)	
	国内制度	海外制度	国内制度	海外制度
期間純年金費用の内訳				
勤務費用	433	118	444	153
利息費用	141	108	151	129
年金資産の期待収益	△116	△80	△168	△98
未認識分の償却				
年金数理損益 (純額)	230	74	225	94
過去勤務費用	△42	—	△42	—
期間純年金費用	646	220	610	278

注12. 剰余金の配当

2013年5月30日開催の取締役会決議により、2013年3月31日現在の株主に対して、2013年6月4日に効力発生した期末配当金の総額は1,738百万円であり、1株当たり配当額は10円であります。

2013年10月29日開催の取締役会決議により、2013年9月30日現在の株主に対して、2013年12月2日に効力発生した中間配当金の総額は1,742百万円であり、1株当たり配当額は10円であります。

2014年5月28日開催の取締役会決議により、2014年3月31日現在の株主に対して、2014年6月3日に効力発生した期末配当金の総額は871百万円であり、1株当たり配当額は5円であります。

2014年10月28日開催の取締役会決議により、2014年9月30日現在の株主に対して、2014年12月1日に効力発生する中間配当金の総額は871百万円であり、1株当たり配当額は5円であります。

注13. 製品保証引当金

アドバンテストの製品は一般に製品保証の対象となり、アドバンテストは売上を計上する時点でその予想費用を引当金として計上しております。保証期間における修理を将来提供するため、保証期間にわたる見積修理費用を、実際の修理費用の売上に対する発生率等に基づいて引き当てております。

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間における製品保証引当金の増減は以下のとおりであります。

単位：百万円

	前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)
期首残高	1,889	1,589
増加額	1,429	952
減少額	△1,447	△1,079
為替換算調整額	21	30
期末残高	1,892	1,492

注14. その他収益（△その他費用）

前第2四半期連結累計期間および前第2四半期連結会計期間において、その他収益（△その他費用）には、為替差益がそれぞれ85百万円および129百万円含まれております。

当第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結会計期間において、その他収益（△その他費用）には、為替差益がそれぞれ936百万円および729百万円含まれております。

注15. セグメント情報

アドバンテストは、半導体・部品テストシステムの製品群とテスト・ハンドラやデバイス・インタフェース等のメカトロニクス関連製品群の製造・販売を主な事業内容とし、その他にこれらに関連する研究開発および保守・サービス等の事業活動を展開しております。アドバンテストは3つの報告可能な事業セグメントを有しております。これらの報告可能な事業セグメントは、製品と市場の性質に基づいて決定され、経営者が経営意思決定のために使用する財務情報と同様の基礎情報を用いて作成されております。

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間ならびに前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間における報告可能な事業セグメント情報は次のとおりであります。

単位：百万円

	前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)				合計
	半導体・ 部品テスト システム事業	メカトロ ニクス 関連事業	サービス他	消去または 全社	
外部顧客に対する売上高	41,213	6,787	11,638	—	59,638
セグメント間の内部売上高	91	—	—	△91	—
売上高	41,304	6,787	11,638	△91	59,638
調整前営業利益（△損失）	△3,785	△2,488	1,172	△2,455	△7,556
（調整）ストック・オプション費用					438
営業利益（△損失）					△7,994

単位：百万円

当第2四半期連結累計期間  
(自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)

	半導体・ 部品テスト システム事業	メカトロ ニクス 関連事業	サービス他	消去または 全社	合計
外部顧客に対する売上高	54,925	11,100	12,918	—	78,943
セグメント間の内部売上高	66	—	—	△66	—
売上高	54,991	11,100	12,918	△66	78,943
調整前営業利益 (△損失)	7,904	714	1,568	△3,794	6,392
(調整) ストック・オプション費用					—
営業利益 (△損失)					6,392

単位：百万円

前第2四半期連結会計期間  
(自 2013年7月1日 至 2013年9月30日)

	半導体・ 部品テスト システム事業	メカトロ ニクス 関連事業	サービス他	消去または 全社	合計
外部顧客に対する売上高	20,274	3,265	6,009	—	29,548
セグメント間の内部売上高	16	—	—	△16	—
売上高	20,290	3,265	6,009	△16	29,548
調整前営業利益 (△損失)	△2,525	△1,123	791	△1,383	△4,240
(調整) ストック・オプション費用					438
営業利益 (△損失)					△4,678

単位：百万円

当第2四半期連結会計期間  
(自 2014年7月1日 至 2014年9月30日)

	半導体・ 部品テスト システム事業	メカトロ ニクス 関連事業	サービス他	消去または 全社	合計
外部顧客に対する売上高	28,881	6,307	6,926	—	42,114
セグメント間の内部売上高	66	—	—	△66	—
売上高	28,947	6,307	6,926	△66	42,114
調整前営業利益 (△損失)	4,786	559	940	△2,295	3,990
(調整) ストック・オプション費用					—
営業利益 (△損失)					3,990

全社に含まれる営業利益 (△損失) への調整は、主として全社一般管理費および事業セグメントに割り当てられていない基礎的研究活動に関連する研究開発費であります。

アドバンテストは、ストック・オプション費用調整前営業利益 (△損失) をマネジメントによる事業別セグメントの評価等に使用しております。

注16. 1株当たり情報

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間ならびに前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間における基本的小および希薄化後1株当たり四半期純利益(△損失)の計算は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)	
分子			
四半期純利益(△損失)	△9,339	4,585	百万円
ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の 希薄化の影響	—	△8	百万円
希薄化後四半期純利益(△損失)	△9,339	4,577	百万円
分母			
基本的平均発行済株式数	174,072,271	174,189,320	株
ストック・オプションの希薄化の影響	—	35,545	株
ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の 希薄化の影響	—	18,126,888	株
希薄化後平均発行済株式数	174,072,271	192,351,753	株
基本的1株当たり四半期純利益(△損失)	△53.65	26.32	円
希薄化後1株当たり四半期純利益(△損失)	△53.65	23.79	円
	前第2四半期連結会計期間 (自 2013年7月1日 至 2013年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2014年7月1日 至 2014年9月30日)	
分子			
四半期純利益(△損失)	△5,698	3,246	百万円
ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の 希薄化の影響	—	△4	百万円
希薄化後四半期純利益(△損失)	△5,698	3,242	百万円
分母			
基本的平均発行済株式数	174,194,872	174,188,351	株
ストック・オプションの希薄化の影響	—	65,455	株
ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の 希薄化の影響	—	18,126,888	株
希薄化後平均発行済株式数	174,194,872	192,380,694	株
基本的1株当たり四半期純利益(△損失)	△32.71	18.64	円
希薄化後1株当たり四半期純利益(△損失)	△32.71	16.85	円

2013年9月30日および2014年9月30日現在、アドバンテストは、希薄化効果を有しないため希薄化後1株当たり四半期純利益の計算より除いているものの、将来において1株当たり四半期純利益を希薄化する可能性のある発行済のストック・オプションを8,107,455株および4,485,058株有しております。

2【その他】

2014年10月28日開催の取締役会において、2014年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、中間配当として、1株につき5円(総額871百万円)を支払うことを決議いたしました。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2014年11月14日

株式会社アドバンテスト

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中山 清美 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 田中 卓也 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 脇本 恵一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アドバンテストの2014年4月1日から2015年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2014年7月1日から2014年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2014年4月1日から2014年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第95条の規定により米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（「四半期連結財務諸表注記1.」参照）に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（「四半期連結財務諸表注記1.」参照）に準拠して、株式会社アドバンテスト及び連結子会社の2014年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。